

チャレンジ！
オープンガバナンス2024
([COG2024](#))
その意義と課題

キックオフイベント
2024年6月15日



COG2024キックオフプログラム概要

<https://ogn.or.jp/cog/405/>

1. 開会: 13:00～13:30

(1) 本日のプログラム説明とCOGの歩み: COG事務局 13:00～13:10

(2) 参加審査委員によるメッセージ「COG2024への期待」 13:10～13:30

- 川島、神原、国谷、庄司、渡辺各委員から(進行: 澁谷遊野准教授)

2. COG2023参加受賞チームと自治体の経験に学ぶ 13:30～14:50

(1) COG2023受賞チーム 13:30～14:20

(2) COG2023ファイナリスト関係自治体 14:20～14:50

3. COG2024を進める手順14:50～15:20(エバンジェリスト多田・事務局奥村)

チャレンジ!! オープンガバナンス2024(COG2024)は[こちら](#)

事前録画のビデオ放映とともに

[北野菜穂・COG2020 総合賞チームリーダー](#)

[福島健一郎・コード・フォー・カナザワ両氏参加](#)

- (1) COG2023受賞チーム 13:30～14:20 (進行: 平敷雅、井上拓央特任助教・事務局)

- <一チームあたり発表5分審査委員などとの対話4分となります>

① 総合賞 豊岡チーム: 発表と対話 13:30～13:40

[シン稽古堂塾: 豊岡市](#)

② アイデア賞 横浜チーム: 発表と対話 13:40～13:50

[個・孤の時代の人生ケア会議「Ayumiyor!」プロジェクト: 横浜市](#)

③ 連携体制賞 那覇(AMMA)チーム: 発表と対話 13:50～14:00

[チームAMMA: 那覇市](#)

④ 学生賞 新潟チーム: 発表と対話 14:00～14:10

[新潟法律大学校Gゼミ下水道LOVERSー: 新潟市](#)

⑤ ハーバード賞 那覇(小禄)チーム: 発表と対話 14:10～14:20

[たのしむぞ〜06! \(なは市民協働大学院 小禄チーム\): 那覇市](#)

- (2) COG2023ファイナリスト関係自治体 14:20～14:50 (進行: 多田功・COGエバンジェリスト・元加古川市)

<予定自治体各2分リレーメッセージのあと時間次第で審査委員などとの対話です>

豊岡市、横浜市、那覇市、新潟市、鶴岡市、水戸市、太田市、加古川市、宇部市、倉敷市、

からのメッセージと対話

・自治体側からの課題提出において工夫された点

・市民側との体制づくり

・今後に向けた展望

COG審査委員会

審査委員長

城山 英明（東京大学未来ビジョン研究センター長 公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授）

審査副委員長

坂井 修一（東京大学副学長・附属図書館長 大学院情報理工学系研究科教授）

審査委員（五十音順）

宇野 重規（東京大学社会科学研究所教授）

大橋 弘（東京大学副学長 大学院経済学研究科教授）

川島 宏一（筑波大学システム情報系社会工学域教授）

神原 咲子（神戸市看護大学看護学部教授）

国谷 裕子（東京芸術大学理事）

庄司 昌彦（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

関本 義秀（東京大学空間情報科学研究センター教授）

渡辺 美智子（立正大学データサイエンス学部教授）

運営コーディネーター

奥村 裕一（社）OGN代表理事 元東京大学公共政策大学院客員教授



本日参加の審査委員紹介

川島 宏一 （筑波大学システム情報系社会工学域教授）

神原 咲子 （神戸市看護大学看護学部教授）

国谷 裕子 （東京芸術大学理事）

庄司 昌彦 （武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

渡辺 美智子 （立正大学データサイエンス学部教授）

COGについて

COG事務局

次世代の社会をつくる オープンガバナンス



- モットー
 - 市民も変わる
 - 地域のことは自分ごと
 - 行政も変わる
 - 地域のプラットフォーム
 - オープンガバナンス
 - 市民と行政のオープンな協働

永遠のベータ版

- アイデアに磨きをかける3D
- データ分析と見える化
 - 社会の実相の確認と裏付け
- デザイン思考
 - 当事者の心を知る共感が原点
- デジタル技術
 - 21世紀の起爆剤をうまく使う

SDGsにも貢献

市民も変わる、行政も変わる オープンガバナンス！！

市民も主役 (Engaged citizen)

- ・ 地域課題の解決を自分ごととして未来をつくる市民となります
- ・ 学生は経験を積んでこのような市民として育ちます

行政も主役 (Open government)

- ・ 知識の共有で地域社会のプラットフォームをめざします
- ・ オープンデータはデジタル時代のデータ共有形式です

オープンガバナンス (Open governance)

- ・ 市民も行政も主役で新たな協働と共創が始まります
- ・ 多様な関係者で課題をオープンにガバナンス(舵取り)していきます
- ・ 多様な関係者が袂を脱いで率直に話しあえる場(アゴラ)が生まれます



COG2024のプロセス

STEP1 (いまここ)

自治体からの
課題募集
(2024年6月～8月)

COGによる協働の始まり
市民目線で課題を発掘し
関連の公開データと共に
地域の課題をエントリー

STEP2

市民／学生の
解決アイデア募集
(2024年9月～12月)

＞ アイデアに磨きをかける3D
データで事実を知り
デザインで人を知り
デジタルを活用する

STEP3

最終公開審査と
改善アドバイス
(2025年1月～4月)

＞ アイデアの実現目指して
小さい第一歩を踏み出す
持続と発展を視野に入れ
その基礎をかためる

COGはこれまで8回

- 参加自治体はネットで82
- 市民・学生チームは434



参加自治体実績



1札幌市	12春日部市	23中野区	34越前市	45草津市	56神戸市長田区	67高松市
2室蘭市	13深谷市	24多摩市	35静岡市	46京都市	57姫路市(※)	68松山市
3森町	14松戸市	25神奈川県	36三島市	47大阪府	58西宮市	69八幡浜市
4八戸市	15茂原市	26横浜市	37掛川市	48大阪市	59豊岡市	70久万高原町
5仙台市	16流山市	27横浜市金沢区	38裾野市	49大阪市東淀川区	60加古川市	71土佐町
6鶴岡市	17千代田区	28川崎市宮前区	39菊川市	50大阪市阿倍野区	61宝塚市	72北九州市
7南陽市	18港区	29鎌倉市	40牧之原市	51大阪市東住吉区	62高砂市	73福岡市
8会津若松市	19文京区	30新潟市	41豊橋市	52大阪市住之江区	63三田市	74小城市
9水戸市	20品川区	31石川県	42大津市	53豊中市	64生駒市	75玉名市
10太田市	21目黒区	32金沢市	43長浜市	54枚方市	65倉敷市	76日南市
11熊谷市	22世田谷区	33鯖江市	44近江八幡市	55神戸市	66宇部市	77那覇市

備考:自治体コード順

(※)姫路市・福崎町・市川町・神河町・朝来市・養父市の地域連合り

COG実施体制



- 共催(共同主催)
- 東京大学公共政策大学院 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」教育・研究ユニット(STIG)
- 東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム(GCL)
- (一社)オープンガバナンスネットワーク(ONG)
- 連携
- Roy and Lila Ash Center for Democratic Governance (the Ash Center) at the John F. Kennedy School of Government at Harvard University
- 協賛(実績)
- LINEヤフー株式会社
- (一財)日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)
- 後援
- デジタル庁、内閣府、(一社)行政情報システム研究所、(一財)地域活性化センター、(一社)Code for Japan、(一社)オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン、(一社)オープン・コーポレイツ・ジャパン、デンマーク大使館

COG審査委員会

審査委員長

城山 英明（東京大学未来ビジョン研究センター長 公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授）

審査副委員長

坂井 修一（東京大学副学長・附属図書館長 大学院情報理工学系研究科教授）

審査委員（五十音順）

宇野 重規（東京大学社会科学研究所教授）

大橋 弘（東京大学副学長 大学院経済学研究科教授）

川島 宏一（筑波大学システム情報系社会工学域教授）

神原 咲子（神戸市看護大学看護学部教授）

国谷 裕子（東京芸術大学理事）

庄司 昌彦（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

関本 義秀（東京大学空間情報科学研究センター教授）

渡辺 美智子（立正大学データサイエンス学部教授）

運営コーディネーター

奥村 裕一（社）OGN代表理事 元東京大学公共政策大学院客員教授



COG2023の振り返り

- | | | |
|------------------|---|-------------|
| • 参加自治体: 36 | | • 市民チーム: 10 |
| • 市民・学生応募チーム: 46 | → | • 混成チーム: 8 |
| • 参加者数: 300 | | • 学生チーム: 28 |

参加審査委員による
メッセージ
「COG2024への期待」
13:10～13:30
(各委員1-2分程度)



川島、神原、国谷、庄司、渡辺各委員から (進行: 澁谷遊野准教授・事務局)

COGに期待すること

参加をご検討中
の自治体への
メッセージ

参加をご検討中
の市民／学生への
メッセージ

COG2023参加受賞チームと 自治体の経験に学ぶ 13:30～14:50

1. 受賞チーム 2. ファイナリスト関係自治体 の二部構成



1. COG2023受賞 チーム 13:30～14:20

進行:井上拓央特任助
教・COG事務局

COG2023受賞チームの経験に学ぶ

13:30～14:20

各チームあたり発表5分審査委員などとの対話4分

発表チーム

1. 総合賞 豊岡 13:30～13:40
2. アイデア賞 横浜 13:40～13:50
3. 連携体制賞 那覇(AMMA) 13:50～14:00
4. 学生賞 新潟 14:00～14:10
5. ハーバード賞 那覇(小禄) 14:10～14:20

経験に学ぶ

- ① チームづくり
- ② アイデアづくり
- ③ 自治体との関係づくり
- ④ 今後の展開(構想を含む)
- ⑤ COGに参加したい方へのメッセージ
(参考) 3Dの活用について

各チーム紹介

- ① 総合賞 シン稽古堂塾: 豊岡市
- ② アイデア賞 個・孤の時代の人生ケア会議「AyumiyorI」プロジェクト: 横浜市
- ③ 連携体制賞 チームAMMA: 那覇市
- ④ 学生賞 新潟法律大学校Gゼミー下水道LOVERSー: 新潟市
- ⑤ ハーバード賞 たのしむぞ〜06！（なは市民協働大学院 小禄チーム）: 那覇市

以下各発表チームによる発表と対話

- スライド投影は各発表者による画面共有
- タイマーを画面に出します（事務局）

チーム名：シン稽古堂塾

アイデア名：豊岡市 柿マネジメントプラットフォーム 『Botta!』

自治体名：豊岡市

- ① チームづくり
 - ② アイデアづくり
 - ③ 自治体との関係づくり
 - ④ 今後の展開(構想を含む)
 - ⑤ COGに参加したい方へのメッセージ
- (参考) 3Dの活用について

・ COG2023 総合賞

柿マネジメントプラットフォーム

Botta!

収穫されずに残っている柿とそれを欲しいと思っている人たちに
つなげる地域のプラットフォーム

マッピング

地域を歩き、スマホ
を使って柿の木の位
置を記録します。
イベントは意外とみ
んなが楽しめます！

僕の柿
ぼった？

データ分析

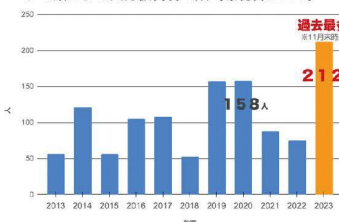
柿の木のデータを分
析し、柿の利用と管
理についてみんなで
考えます。クマ対策
にもつながります。

マッチング

収穫してほしい柿の
情報が利用者に届き
ます。柿をもらう代
わりに地域の困りご
とに協力しよう！

**全国のクマ被害者数
過去最多を更新！**

クマ類による人身被害者の数（環境省まとめ）



誘引物である柿をなんとかしようと
住民も行政も対策を始めている！

実現に向けて

実証フェーズ：シン稽古堂塾（ボランティア）が主体となって、豊岡市内の地区・行政と
連携しマッピングイベント、データ分析、マッチングを行います。

実装フェーズ：行政や民間などのサービスとして実装化を目指します。

企画者：シン稽古堂塾

豊岡市のシビックテック団体です。これからの時代を生き抜くための学び舎として
デジタルやデザインを自由に学んでいます。



シン稽古堂塾のHPリンク

印象に残っていること・苦労したこと・よかったこと 豊岡・シン稽古堂塾

短冊式でごく短く書いてください あとは口頭で補ってください

(当日発表者名記入欄:複数可能です)

(登壇者用参考資料)

①チームづくり 1. 豊岡市内外のメンバーが揃っている 2. それぞれの強み/専門がある 3.	③自治体との関係づくり 1. チーム内にパイプを持つ方がいた 2. 日々のコミュニケーションを大事にした 3.
②アイデアづくり 1. 「マッピング」からの逆転の発想 2. 地域の困りごとを拾っていく 3.	④今後の展開(構想を含む) 1. 局所的な実施から徐々に全市的に 2. 地域課題を地域資源へ 3.
⑤これからCOGに参加をしたい方へのメッセージ 日々のわくわくや疑問を大切にしてください。それがCOGの入り口になります。	

(参考)3Dの活用について(問答形式) 豊岡・シン稽古堂塾 当日の口頭発表では時間があればお願いします

(登壇者用参考資料)

問	答(活用した際の感想や使い方など課題があればそれもどうぞ)
①データ分析ー地域課題の理解に役立ったか 欲しいデータは十分だったか	欲しいデータが一部なかったため、自分たちでデータを集めました。かなり粗いデータだったので、何ができる(何をやる)かを念頭に置きながらデータの精度を上げていきたいと考えています。
②デザイン思考ー課題当事者の立場や気持ちを汲み取ったアイデアになったか	地域での課題感を地域の方にヒアリングしながら拾っていったため、ある程度課題当事者に沿ったアイデアになったかと考えています。
③デジタル技術ー課題解決にどう生かしていくか 何があればもっとデジタル技術を使えるか	本アイデアの肝は「人と人をつなぐ」部分だと考えています。その部分を担う1つのツールとしてデジタル技術を生かしていきたいと考えています。
＜自由コメント欄: 例えば3D以外でこんなものがあれば・・・など何でもどうぞ＞ きちんと現場に出る、情報を自分の足で稼ぐという行動力が実態に即したアイデアになるのだと考えます。	

アイデア名 : AyumiyorI ～横浜市すすき野団地から提案するアドボケーターとAIチャットボットによる個・孤に寄り添う行政システムの構築～

自治体名:横浜市

- COG2023 アイデア賞
- ① チームづくり
 - ② アイデアづくり
 - ③ 自治体との関係づくり
 - ④ 今後の展開(構想を含む)
 - ⑤ COGに参加したい方へのメッセージ
- (参考) 3Dの活用について

（参考）3Dの活用について

2024/6/16

横浜市 サークュラー・エコノミーplusの概念図

ヘルスプロモーション部門
における様々な取り組み
新しい仕組みの構築

ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター
ヘルスプロモーションセンター

すすき野団地

家族、後見人
まには

アドボケーター

本人

意思決定

意思決定支援

支援

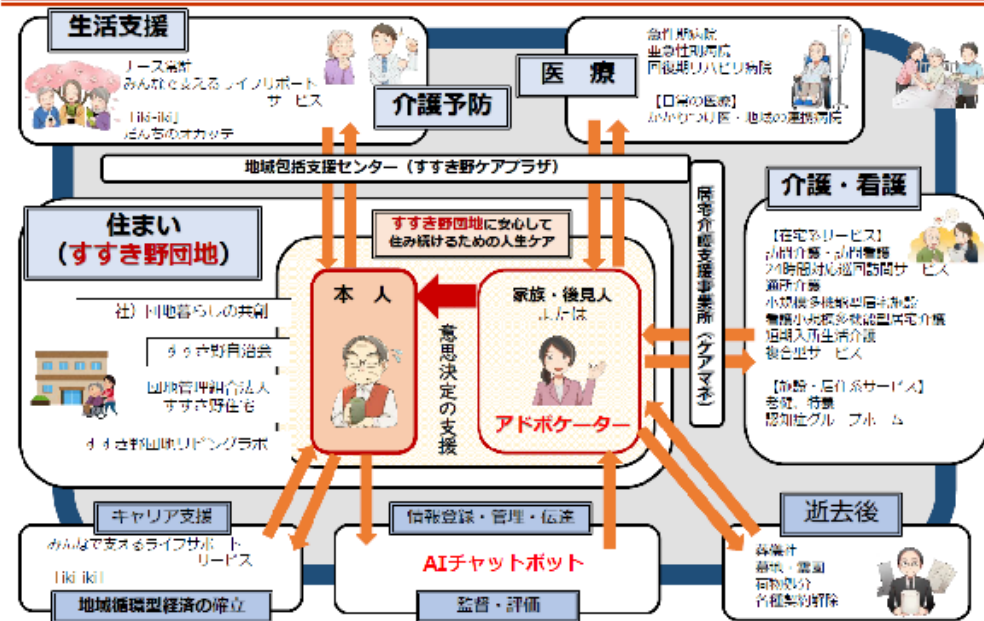
その他、地域社会を構成
するプレーヤー

横浜市AIチャットボット

※ AIチャットボット
✓ 意思決定に必要な情報を提供
✓ 行政機関、自治体のサービスの提供
✓ 「苦しい」 困りごとを 支援

※ アドボケーター
本人が利用できないサービスや、本人が利用できないサービス
本人が利用できないサービスや、本人が利用できないサービス
本人が利用できないサービスや、本人が利用できないサービス

すずき野団地における「個・孤の時代の人生ケアシステム」実証プロジェクト



印象に残っていること・苦労したこと・よかったこと 横浜・Ayumiyori 短冊式でごく短く書いてください あとは口頭で補ってください (当日発表者名記入欄: 吉田、黒澤)

(登壇者用参考資料)

①チームづくり 1. 当初のチームづくりの呼び掛け人であったメンバーが、1月下旬に亡くなってしまったが、彼の遺志をついで、チームが一丸となってアイデアの実現に向けて動いている 2. 学生も社会人も多忙で、スケジュールを合わせるのが難しかった 3. 発表もすべて、メンバーそれぞれが自分の役割を認識して分担して行えた	③自治体との関係づくり 1. もはや行政だけで地域の社会課題を解決することは困難で、民間の力も必要としているということが分かった 2. 公民の役割分担の線引きの難しさや、個人情報取り扱いの壁が高すぎる 3. 民間であっても、行政と対等な立場でお互いにwinwinな関係を築きながら、社会課題解決に取り組むことが可能だと実感できた
②アイデアづくり 1. リビングラボで取り組んでいたアイデアを、改めてCOG用にコンパクトに分かりやすくまとめるために、皆で話し合いを重ねた 2. アイデアそのものは、民間ですでに取り組み始めていたものだったが、それを行政の取組みと擦り合わせていくところに苦労した 3. COGに向けて学生さんが入ってくれたことで、これまで民間の大人たちがやってきたことを、若者目線で考え直してくれて、新たな視点を導入できた	④今後の展開(構想を含む) 1. アイデア賞をいただいたときの「AIチャットボット」から、より汎用性の高い「本人の本人による本人のための情報登録システム」にステップアップさせて、実現に向けて取り組んでいる 2. システムの開発や実装化に向けての資金繰りに悩んでいる 3. COGでアイデア賞をいただいたことで、注目度が高まり、アイデアの実現可能性も高まっている
⑤これからCOGに参加をしたい方へのメッセージ 地域が直面する社会課題を解決するためのアイデアを、民間と行政とで共に真剣に考える機会となり、行政を身近に感じることができるようになりました	

(参考)3Dの活用について(問答形式) 横浜・Ayumiyorl 当日の口頭発表では時間があればお願いします

(登壇者用参考資料)

問	答(活用した際の感想や使い方など課題があればそれもどうぞ)
①データ分析ー地域課題の理解に役立ったか 欲しいデータは十分だったか	人口動態のデータは単身世帯の増加の裏付けには使えるが、単身で家族に頼れない人が困難に突き当たったデータや、それをシャドウワークで解決しようとする時の社会的損失の測定は難しい。
②デザイン思考ー課題当事者の立場や気持ちを汲み取ったアイデアになったか	取り上げた課題は、すでに地域で当事者や当事者予備軍を交えて探究が始まっていたので、当事者の課題意識は十分に組み込めた。
③デジタル技術ー課題解決にどう生かしていくか 何があればもっとデジタル技術を使えるか	技術的には可能であると思われるが、個人情報壁が高すぎて、これを超えていくことが最も困難。
＜自由コメント欄: 例えば3D以外でこんなものがあれば・・・など何でもどうぞ＞	

チーム名：チームAMMA

アイデア名：那覇西湾岸エリアに多く暮らす在留外国人と地域が協働で作る安全・安心な防災に強いまちづくり

自治体名：那覇市

・ COG2023 連携体制賞

- ① チームづくり
 - ② アイデアづくり
 - ③ 自治体との関係づくり
 - ④ 今後の展開(構想を含む)
 - ⑤ COGに参加したい方へのメッセージ
- (参考) 3Dの活用について



災害に脆弱な那覇西湾岸エリアに暮らす在留外国人と
『集まろう(A)』『みんなで(M)』『守ろう(M)』『安全安心なまち(A)』プロジェクト

課題



- ①全国上位の外国人増加率 ②海岸沿いの津波浸水地域 ③防災への意識や学びの違い
- 日本語学校8校 約1200名の留学生 住宅密集地&建物の老朽化 アンケート調査で見えた課題とニーズ

提案

災害時に協働できるパートナー（アンマー・AMMA）を増やそう！

※ネパール人学生の憩いの場や学校に出向き、食を通じた交流でつながる防災への第一歩

【実現に向けた5つの取組】

- ① AMMA（防災パートナー）の育成
- ② AMMAモーニング（“食べて”学ぶ防災）の実施 【第1回 2024年1月27日開催】
- ③ 在沖ネパール人に寄り添う防災食の開発
- ④ 外国人コミュニティでの炊き出し・防災キャンプ
- ⑤ 那覇市と協働での防災言語のバリアフリー化

※災害プラットフォームおきなわと連携したコミュニティFM 在沖ネパール人学生発信番組 準備会始動！！

最初の一步 食べて 学ぶ 防災！ 「AMMAモーニング」開催決定！

日時：2024年1月27日（土）8:00-10:00

会場：波の上ビーチ

Q. AMMAモーニングに参加したいですか？

ネパール人学生
84%が参加希望！



★防災やまちづくりに関心がある！
★異文化に興味がある！
★楽しいことが好き！
★AMMAになりたい！

※学生200人にアンケートを実施。133名が回答。

※AMMAは性別不問です。

印象に残っていること・苦勞したこと・よかったこと 那覇(AMMA)

短冊式でごく短く書いてください あとは口頭で補ってください

(当日発表者名記入欄:複数可能です)

(登壇者用参考資料)

①チームづくり 1. 協働大学院があったから繋がれた 2. 前市長が同級生とか豪華すぎ！ 3. このチームでここまで本気になれると 思っていなかった(実は、協働大学院の卒業も怪 しかった)	③自治体との関係づくり 1. 過去にCOGにチャレンジして先輩が地域にいた から繋がれた！ 2. 那覇市総力戦になっていた 3. すべてにおいて那覇市の盛り上がりを感じた
②アイデアづくり 1. 手段の話が優先的になってしまった 2. ストーリー作りに苦戦した 3. 仲間を作る伝え方(ワクワクの伝え方、見せ 方)	④今後の展開(構想を含む) 1. チャレンジ！ネパール研修 2. レストランと提携したアレンジレシピ 3.
⑤これからCOGに参加をしたい方へのメッセージ とにかく楽しんで！同じ目的を持つ仲間って最高！	

(参考)3Dの活用について(問答形式) 那覇(AMMA)

当日の口頭発表では時間があればお願いします

(登壇者用参考資料)

問	答(活用した際の感想や使い方など課題があればそれもどうぞ)
①データ分析ー地域課題の理解に役立ったか 欲しいデータは十分だったか	那覇市全体の把握をするには役に立ったが、細かくみていくには使いにくい面もあった。 基本的に欲しいデータは自分たちで調査をかけてデータ収集をしていた。
②デザイン思考ー課題当事者の立場や気持ちを汲み取ったアイデアになったか	なは市民協働大学院での企画のデザインの仕方、ワクワクの作り方は非常に参考になった。また、チームだけでなく、同期全体でそれぞれをフォローできたのが大きい。良きライバルとして、大学院でつくり上げた企画が徐々にロコミ(ロコミ効果大!)により浸透してきており、今は沖縄の学生ボランティアも入ってきている。
③デジタル技術ー課題解決にどう生かしていくか 何があればもっとデジタル技術を使えるか	私たちの独自アンケートと那覇市の定量的なアンケートのマッピングを進めていきたい。
<自由コメント欄:例えば3D以外でこんなものがあれば・・・など何でもどうぞ> 新たに3C? Connection、collaboration、Communication 来年の報告会にはネパールの学生を連れていきます!	

チーム名：新潟法律大学校Gゼミー下水道 LOVERSー

アイデア名：下水道から始まるサーキュラーエコノミー～Z世代と創る「廃棄物」のない社会～

自治体名：新潟市

- ① チームづくり
 - ② アイデアづくり
 - ③ 自治体との関係づくり
 - ④ 今後の展開(構想を含む)
 - ⑤ COGに参加したい方へのメッセージ
- (参考) 3Dの活用について

・ COG2023 学生賞

2024/6/16

『下水道から始まるサーキュラーエコノミー』

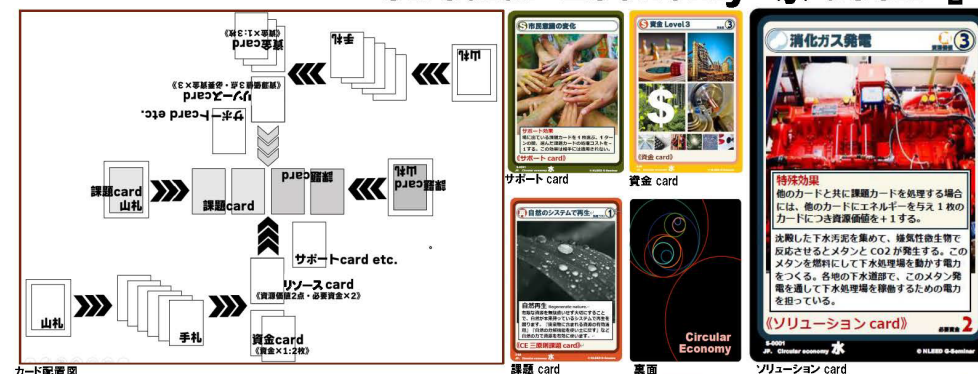
～Z世代と創る「廃棄物」のない社会～
下水道をモチーフとしたサーキュラーエコノミーを学べる TCG によるゲーミフィケーション教育

Z世代が興味を持つ下水道 PR 手法の考察

企画概要

サーキュラーエコノミーを学ぶトレーディングカードゲーム

『Circular Economy～水 deck～』



カード配置図

リソースカード



課題を解決するためのカード。下水や下水汚泥を再利用して、サーキュラーエコノミーを実現する事例がカードのモチーフ。手札から資金を払って場に出し、課題カードを獲得する。

課題カード



プレイヤー同士が解決すべき課題のカード。サーキュラーエコノミーの3原則に基づいて、サーキュラーエコノミーを実現するために、解決すべき課題が書かれている。

サポートカード



自分の課題解決を円滑に進めるためのカード。リソースカードを場に出すための必要資金を軽減するカードなど、自分に良い影響をもたらすカードがあり、プレイヤーを優位にするカード。

STEP 1 下水道をモチーフにした環境教育システムの構築

○ トレーディングカードゲーム『Circular Economy～水 deck』の作成と授業構築

STEP 2 トレーディングカードを使用した授業イベント実施

○ 関連校・新潟市内の高校に営業をかけて授業展開・および関連団体イベント参加

STEP 3 全国下水道部に『Circular Economy 水 deck』浸透

○ 全国各自治体の下水道を紹介するカードを作成し授業・イベントノウハウと共に提供

STEP 4 『Circular Economy』を水平展開する

○ スポンサーを募り『食』『衣』『都市鉱山』などをテーマにした deck を作成しプロモーションとして展開

今後の予定(2024 年)



Flyer-0001

JR Circular economy 水 deck

©NLEED G-Seminar

印象に残っていること・苦労したこと・よかったこと 新潟・下水道LOVERS

短冊式でごく短く書いてください あとは口頭で補ってください

(当日発表者名記入欄:間 千真)

(登壇者用参考資料)

①チームづくり 1. 作業に対し人数不足が問題だった 2. 円滑な情報共有に苦労した 3. 担当分けが上手かった	③自治体との関係づくり 1. 処理場見学や授業などの提供 2. 企画内容の添削の精度に驚く 3. 自由研究教室・探求授業の開催
②アイデアづくり 1. ゲームの楽しさと教育の両立 2. ゲームバランスの設定に苦労した 3. TGC経験者と未経験者のバランス	④今後の展開(構想を含む) 1. 『CE水deck』カードイベントの開催 2. 全国の下水道部への広報提案 3. 日本水大賞・循環のみち下水道賞応募
⑤これからCOGに参加をしたい方へのメッセージ 何事も楽しむことが一番と思います。自分たちだったら何が楽しいだろうと考えながら企画しました。ウェイ！！！！な気持ちだと思います。	

(参考)3Dの活用について(問答形式) 新潟・下水道LOVERS 当日の口頭発表では時間があればお願いします

(登壇者用参考資料)

問	答(活用した際の感想や使い方など課題があればそれもどうぞ)
①データ分析ー地域課題の理解に役立ったか 欲しいデータは十分だったか	国や自治体、民間シンクタンクなどが出している各種統計データーによって全体像を把握することが出来た。また、下水道部からの講義や施設見学でそのデーターの自分事化が図れたと考える。それを前提に、下水道モチーフの探求授業や自由研究教室を行うことでデーターの検証ができたと感じる。
②デザイン思考ー課題当事者の立場や気持ちを汲み取ったアイデアになったか	上記授業や教室で課題当事者の関心を深く知ることが出来た。そこで、ターゲットとなる若年層の興味をひくためのゲーミフィケーションの必要性を実感した。そのため、市場規模がこの3年間で倍増したトレーディングカードゲームを企画に取り入れ、下水道モチーフで持続可能社会の実現するゲームを作成する。
③デジタル技術ー課題解決にどう生かしていくか 何があればもっとデジタル技術を使えるか	ゲームを広めるにあたり、ユーチューブ動画などは作成予定。さらに、全国自治体の下水道部に向けてプラットフォームとなるホームページが欲しい。さらには、ゲームのアプリ化や市民に向けての教育ホームページの開設なども行いたいと考えている。しかし、現状は技術力不足で難しい状況である。
＜自由コメント欄:例えば3D以外でこんなものがあれば・・・など何でもどうぞ＞ 調べるたびに知らなかったことが増えていく下水道は、とても魅力的で、この魅力を伝えるためのカードゲームは、自分事化につながり、私たちを本気にさせました。学生賞をとれたことはもちろん、受賞したことでより多くの人が下水道に関心をもってもらえると思うと、とても嬉しいです！COGに参加できて良かったです！ありがとうございました！	

チーム名：たのしむぞ～06！（なは市民協働大学院 小祿チーム）

アイデア名：近所の公園が私のお庭プロジェクト

自治体名：那覇市

・ COG2023

・ ハーバードイノベーション賞

- ① チームづくり
 - ② アイデアづくり
 - ③ 自治体との関係づくり
 - ④ 今後の展開（構想を含む）
 - ⑤ COGに参加したい方へのメッセージ
- （参考）3Dの活用について

たのしむぞ 小6

小祿南小学校区
小祿1丁目
自治会空白エリア

集合住宅 > 戸建て 5倍

開校する小学校と比べ 核家族多数 2倍

小祿1丁目の地域課題

民生・児童委員 欠員 75% (R3年9月1日現在) 45% (最低レベル)

水害 海拔低・局地的豪雨

ひよどり公園

鏡原中学校

漫湖公園

ちどり公園

ひよどり公園

水害多発地点

もしもの時「助けて」と言えるためには 顔の見える関係性が必要だ！！

近所の公園が私のお庭プロジェクト
in ひよどり公園
with SDGs Passport

ここからヒントを得ました！

アンケートで小・中学生がベンチがポロポロマイヤと回答

愛護会休止中
シルバー頼み 10基

《プロジェクト達成までの道のり》

12月末 鏡原中学校 小祿エリア初 SDGsパスポート導入！

Step1 1月6日(土) キックオフ：コラボイベント
もちつき祭 × ペンキ塗り
関り余白 こども発達支援センター、児童デイサービス、鏡原中学他

Step2 2月25日(日) あなたの得意で地域を元気に！
第1回 にじいろベンチ + @
関り余白 鏡原中学、まち協、周囲500m住民(集合住宅へ避難チラシ)他

Step3 未来開催 一緒に・楽しく・防災カセUP！
第1回 あったかイベント
関り余白 鏡原中学、まち協、自分達も出店+お庭つながり出店他

一緒にもちと安心して大好きなお庭を創ろう！

To Be Continued 年齢性別を越えた仲間とちょっと楽しむ！

印象に残っていること・苦労したこと・よかったこと 那覇（小禄）

短冊式でごく短く書いてください あとは口頭で補ってください

（当日発表者名記入欄：●加島すずの●石垣まゆみ ●照屋りさ ）

（登壇者用参考資料）

①チームづくり 1. 様々な特技、立場のメンバー 2. 素人集団 3. 校区まちづくり協議会との連携	③自治体との関係づくり 1. 休みも夜も一緒にブラッシュアップ 2. 市長へプレゼン 3. 大学院メンバーとの関係
②アイデアづくり 1. 勢いに任せて楽しむ 2. サーカス型でなく運動会型か 3. 中学生とのアイデア出し	④今後の展開（構想を含む） 1. 楽しむ防災イベント 2. 得意を持ちよるあったかイベント 3. 公園で楽しむことをバックアップ
⑤これからCOGに参加をしたい方へのメッセージ COGに参加することで、企画のブラッシュアップ、自治体との関わり、活動の周知に勢いがつきました！とてもあたたかい場です。楽しみましょう～	

(参考)3Dの活用について(問答形式) 那覇(小禄)

当日の口頭発表では時間があればお願いします

(登壇者用参考資料)

問	答(活用した際の感想や使い方など課題があればそれもどうぞ)
①データ分析ー地域課題の理解に役立ったか 欲しいデータは十分だったか	・こども会がなくなったり、民生児童委員が欠員したり、漠然と「つながりが薄い」地域だというのを、自治会情報、人口動態と重ねることで、地域の輪郭が見えてきた気がします。ですが、私たちの活動でどのようなデータがあった方がよいのか、正直まだ掴めていない部分でもあります。
②デザイン思考ー課題当事者の立場や気持ちを汲み取ったアイデアになったか	・自分ごととして地域に関わってほしい、→集合住宅が多いからこそ、そこにある公園を自分のお庭として使ってみませんか、まずはベンチを一緒に好きな色に塗りましょう、というスタートとしました。 ・活動に参加することにハードルがないか、お手軽か、というのは気を付けないといけないと思います。
③デジタル技術ー課題解決にどう生かしていくか 何があればもっとデジタル技術を使えるか	・活動の周知手段や諸手続きにデジタルが活用できればと思っています。 ・周知については、ここのエリアの人はどんな媒体を見ているか、知る必要があるかと思っています。
＜自由コメント欄: 例えば3D以外でこんなものがあれば・・・など何でもどうぞ＞	



2. COG2023ファイ ナリスト関係自治体 14:20～14:50

進行:多田功・COGエバンジェ
リスト

昨年度ファイナリスト関係自治体の経験に学ぶ

14:20～14:50

予定自治体各1-2分リレーメッセージのあと時間次第で審査委員などとの対話

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 豊岡市 シン稽古堂塾・自治体 | 6. 水戸市 大原学園COGチーム・自治体 |
| 2. 横浜市 AyumiyorI・自治体 | 7. 太田市 おおたんしふおんず・自治体 |
| 3. 那覇市 チームAMMA/たのしむぞ～06！自治体 | 8. 加古川市 兵庫県立大学/choice・自治体 |
| 4. 新潟市 下水道LOVERS・自治体 | 9. 倉敷市 岡山大学「脱・空き家」自治体 |
| 5. 鶴岡市 鶴岡再発見！プロジェクト2023自治体 | 10. 宇部市 学生団体Ube col.自治体 |

①自治体側からの課題提出において工夫された点（市民・学生が魅力を感じる課題）

②市民・学生側との連携体制づくりでの工夫（COGでは連携を大切にしています）

③今後に向けた展望（COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません）

以下各自治体によるリレー発表

- スライド投影は各発表者による画面共有
- タイマーを画面に出します（事務局）

COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (記入自治体名:豊岡市)シン稽古塾

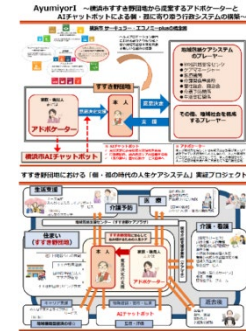
(登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	・地元地域の自然資源の管理を生活者の視点から考えてもらうために、特定外来植物や地元食材の地産地消、有害鳥獣など、地域生活の中で見聞きするような課題を選んだ。 ・自治体のオープンデータ整備にも繋がっていくような課題を選んだ。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	・事務局であるDX推進課が仲介役となり、シン稽古同塾と農林水産課の意見交換の場を設定したり、双方の持っているデータの活用を検討し合うなど連携を促した。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	・Bottaのアイデアについては地域コミュニティ組織等とも連携し、マッピングイベントや柿の活用を行う。また他所、他分野への拡張検討を行う。隣接市町に情報提供する。 ・今年度は学生がCOGにチャレンジできるように参加を促していく。
<自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ> ・COGによって市内のオープンマインドが少しずつ上がっているように思います。 ・学生や市民団体との繋がりはもちろん、他の自治体とも繋がりが生まれる素敵な企画だと思います。	

COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (記入自治体名:横浜市) Ayumiyori

(登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	市民学生の提案の実現可能性を高めるため、横浜市の公民連携の主軸となるテーマを敢えて設定した。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	横浜市内で、以前より構築していたリビングラボを活用して、提案団体と継続的に対話を重ね、実証実験の場を持つようにした。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	横浜発の提案が、他の自治体や国全体の同様の社会課題解決に繋がるようにつとめていく。そのためにも今回受賞したアイデアを提案団体とともに実装化を図っていきたい。
＜自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ＞ 横浜市はこれまで欠かさず参加してきました。これからもCOGを盛り上げていきましょう！	



COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (記入自治体名: 那覇市まちづくり協働推進課)

(登壇者用参考資料)

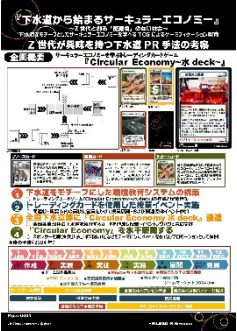
チームAMMA/たのしむぞ～06！



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくなる、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	提出した課題: 地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み まずは<u>市民の解決したい課題からスタート</u>できるよう広義的な課題設定とした。 ☞なは市民協働大学院とリンク！
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	取り組みを知ってもらう！
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	行政の目線でいえば、庁内での連携・協働推進の一翼を担うものであると感じた。 同時に、市民が活動を進めていく中で、オープンデータの弱さが意見として挙がった。また、市民のデータ分析・活用については、まだまだバックアップできることがあるということも分かった。
＜自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ＞	

COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (記入自治体名:新潟市 阿部)下水道LOVERS

(登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	参画する市民・学生テーマ設定の自由度を高めるため、あえて幅広に設定しました。主体性のあるグループにとってはそのほうがやりやすいのではないかと考えています。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	最初に学生の活動を包括的に支援する「後援」を結び、活動の過程で学校・市双方で話し合いながらその時々に応じた必要な支援を行いました。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	学校との協働は3年目になりました。昨年度から「カードゲームの企画・作成」に取り組んでいますが、成果が形として残るようなものにしたいと考えています。受賞をきっかけに業界誌等への寄稿依頼をいただいておりますが、COGについても可能な限りの文字数で文中で説明するようにしています。
＜自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ＞ 行政側は、テーマに取り組んでみたい、と手を挙げてくれたグループと向き合うところまでで既に80点。少なくともその方々はまちの課題を自ら進んで知ろうとしてくださるわけで、“当事者として巻き込まれていただける”というのは最強の行政広報の一形態だと思います。	

COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと

(記入自治体名: 鶴岡市安達) 鶴岡再発見！プロジェクト2023

(登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくなる、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	市民・学生チームにとってわかりやすく自由度のある課題設定がよいのではないかと考えています。その方が応募されるチームにとって創意工夫の余地があり、また楽しめるのではないかと考えています。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	県外の大学と連携しています。応募が予想されるチームのみなさんに鶴岡市を体感していただくということも念頭において、夏に鶴岡市の現地視察のサポートをいたしました。地元出身学生の地元回帰を促進する事業に組み込んで、対応の負担を減らし、相乗効果も得られ大変良かったと思います。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	自治体はどこでも抱える課題であると思いますが、人事異動で担当が変わるとCOGの理解度が変わることがあります。特にテーマの自由度が高く、担当の知識量や経験、人脈が弱い場合は、引継の問題を生ずる場合もあります。そうした場合はその克服策を含めて検討しています。
<自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ> COGは「市民が主役」という自治体のあり方をめざしているところに共感を覚えています。永遠のベータ版で完成形がないというジェネラリストの行政職員が一番苦手で不安に思う内容ですが、市民・学生とつながりたい気持ちと遊び心で楽しみながら、業務の延長上に無理せず試行錯誤していくことがよいと思います。	

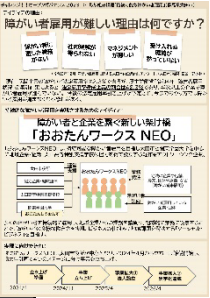
COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (記入自治体名:水戸市)大原学園COGチーム (登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	昨年度は、市役所内部の調整が難しく、各課の課題をピンポイントで…とはできませんでした。そのため、「オープンデータから市の課題を考えてみよう」といったお題でチャレンジさせていただきました。その結果、データを見ながら学生の皆さん自身が「地産地消」に着目し、更にデータを利用するという流れができました。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	市役所の中には、地域で活躍する「とがった」職員が必ず見つかります。そうした職員と課題感を共有しながら、さまざまな団体との連携を模索してみました。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	COGの取組が、市役所内部の職員だけでなく、市民の皆さんに知っていただけるようにチャレンジしていきたいです。COGで発芽した芽を、大きく育てていける環境を地域で作っていききたいですね。
<自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ> ぜひ、あまり構えずに気軽に参加してみるのがおすすめです。きっと楽しい活動につながるはずです。昨年度、学生の皆さんはとりまとめ作業に相当努力されましたが、ファイナル後の達成感はひとしおだったようです。地域の新たな発見にもつながる取組ですので、ぜひチャレンジしてみてください！	

COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (記入自治体名:太田市)おおたんしふおんず

(登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	・自治体側がアイデアの方向性を最初から限定してしまわないように、課題名は幅広い解釈ができるような表現にした。 ・地域課題自体は難しいテーマであるため、問題意識の記入欄には、アイデアづくりのヒントになるような言葉を盛り込んだ。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	・キックオフ勉強会や企業見学、障がい当事者へのインタビューの機会をつくり、具体的なイメージを持って自分事として考えられるようにした。見学やインタビューにはすべて自治体側も同行した。 ・学生チームの主体性を重視して、自治体側はアイデアづくりに行き詰まったときのサポート役に徹した。学生チームと随時連絡を取り合い、進捗確認をした。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	・昨年度のアイデア実現に向けた検討会をおこなう。7月22日に1回目の検討会開催予定(アイデアづくりの協力企業や特別支援学校が出席) ・関係機関からアドバイスをいただく機会をつくる。 ・学生チームが学内イベントでCOGの取組を発表予定。
<自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ> COGを通して、市民・学生が地域課題を自分事として考えられるようになる。地域の人材育成や関係人口創出の観点からも意義が大きいので、ぜひ楽しみながらCOGに参加してほしい。	



COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (加古川市デジタル改革推進課 陰山) 兵庫県立大学/choice



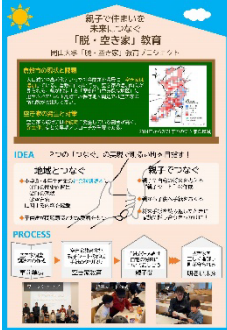
SDGs未来都市
KAKOGAWA



教ていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	普段からワークショップ(加古川市版Decidim)などで意見やアイデアを募集しているものをテーマにすることで、取り組みやすいように工夫しました。 また、市民・学生が取り組まれているものを幅広くテーマにすることができるよう工夫しました。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	対面での連携だけでなく、オンラインでの意見交換も行うようにしました。 また、連携体制の構築にあたっては、既存の連携体制をうまく活用することで、双方に負担が大きくならないように工夫しました。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	引き続き、市民・学生が取り組まれていること、市が取り組んでいることの共通項を見つけ、テーマ設定をしていきたいと思います。 データ・デザイン・デジタルをうまく活用し、市民の皆さんと課題解決に取り組んでいきたいと考えています。
＜自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ＞ 各地域で取り組まれていることを横展開できる機会だと感じています。 自治体としては課題を提示することが一歩だと感じています。	

COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (記入自治体名: 倉敷市) 岡山大学「脱・空き家」

(登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	倉敷市は、これまで先人たちの努力により培われてきた景観資源が多く存在する、個性と魅力にあふれたまちです。この倉敷市において、「誇りあるまちづくりに取り組んでみたい」と思っていただけのようなキャッチーな課題の表現にした。 ①「歴史」を、形あるものとして「未来」につなぐ。 ②「未来」を、語るに値する「歴史」としてつなぐ。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	学生側とざくばらんに意見交換ができる場を設けるとともに、大学の先生にファシリテートしていただいた。(行政側のことばと学生側のことばをお互いがわかりあえる言葉に変換していただいた)
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	展望というより、課題ですが、自治体側職員側の人事異動、学生側の卒業といったことから、継続的な取り組みを行っていく体制を整えるのに毎年、苦慮している。
<自由コメント欄:これからCOG参加をしたい自治体へのメッセージなどどんなことでもどうぞ> 実際にCOGへ参加することで、市民・学生の持つ大きな可能性を体感することができました。自治体と市民・学生がうまく連携することで、多くの課題を解決するチャンスが生まれると感じています。具体的な成果がでなくても、得られるものは多いはずです。是非、COGを体験してください！	

COGの経験を踏まえて教えていただきたいこと (宇部市連携共創推進課) 学生団体Ube col. (登壇者用参考資料)



教えていただきたいこと	回答(COGをさらによくする、COGの仲間を増やすなどの観点でどうぞ)
①自治体側からの課題提出において工夫された点(市民・学生が魅力を感じる課題)	自治体が解決してほしい地域課題と、地域の方々が取り組みたい課題が同じとは限らない。そのため、具体的な課題と、幅広くアイデア募集できる課題を設定した。
②市民・学生側との連携体制づくりで工夫された点(COGでは連携を大切にしています)	大学や高校へ出向き、COGの説明や宇部市の抱える地域課題について出前授業を行った。 また、応募者と本音を出せ合える信頼関係づくりを意識した。
③今後に向けた展望(COG一般でも昨年度のアイデアでも構いません)	宇部市では、学生が主体となることで、地域の様々なステークホルダーと連携が進み、自治体だけでは掘めない地域の細かなニーズを掘り起こすことに繋がっている。こうした取り組みにより、自治体側も、毎回新しい視点や気づきを得ている。また近年、地方自治体が単独で、多様化複雑化する住民ニーズに対応していくことが困難となってきたなか、多様な主体が、地域の現状分析や課題の設定段階から連携し、地域の将来ビジョンを共有して取り組む『共創』を推進しながら、地域課題の解決に繋がっていきたい。

対話タイム

COG2024の進め方

自治体と市民・学生との連携

（進行：多田・奥村）

14:50～15:20

事前録画のビデオ放映とともに

- 北野菜穂・COG2020 総合賞チームリーダー
- 福島健一郎・コード・フォー・カナザワ
- 両氏参加
- 動画は[こちら](#)にあります



COG2024のプロセス

STEP1 (いまここ)

自治体からの
課題募集
(2024年6月～8月)

COGによる協働の始まり
市民目線で課題を発掘し
関連の公開データと共に
地域の課題をエントリー

STEP2

市民／学生の
解決アイデア募集
(2024年9月～12月)

アイデアに磨きをかける3D
データで事実を知り
デザインで人を知り
デジタルを活用する

STEP3

最終公開審査と
改善アドバイス
(2025年1月～4月)

アイデアの実現目指して
小さい第一歩を踏み出す
持続と発展を視野に入れ
その基礎をかためる

STEP1 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2024/#municipalities>

STEP2 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2024/#citizens>

STEP3 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2024/#advices>

STEP1 自治体からの課題応募(8月末×切)

課題をどのようにして見つけるか

- ・ 市民目線と行政目線の違い
 - 供給者目線とユーザー目線(市民目線)
- ・ 市民目線で課題を見つける

市民目線で課題を見つける

- ・ しばしば役所内では気づいていない課題が多い
- ・ この気づきのためには
 - 自分自身が市民目線になってみる
 - いくつかの市民グループからのヒヤリングやワークショップを開く
 - フランクに本音を出せる信頼関係があればやりやすい

STEP1 自治体からの課題（8月末×切） どんなデータが必要か

- ・ 市民がアクセスできる公開データや情報
- ・ オープンデータ 統計 調査結果 報告書 計画等
- ・ オープンデータ形式以外でも公開してあればOK

STEP1 自治体からの課題 関連データ付き公表

- 課題名
 - 30字以内 キャッチフレーズ
- 課題分類 複数チェックOK
- 問題意識
 - 500字以内 わかりやすく
- 担当課
 - COG担当課
 - 市民系、デジタル系、
 - 企画系
 - 個別業務系
 - 課題担当の参加期待

COG2024ウェブサイトで一括公表(9月中旬)

STEP2 市民・学生アイデア生成 (12月20日 〆切)

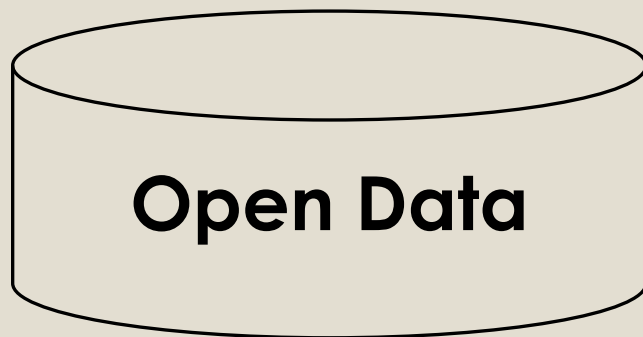
市民・学生の出番

- 社会の現実をよく知る
- 目標：あったらいいね！
- 3D活用
 - データ分析
 - デザイン思考
 - デジタル技術

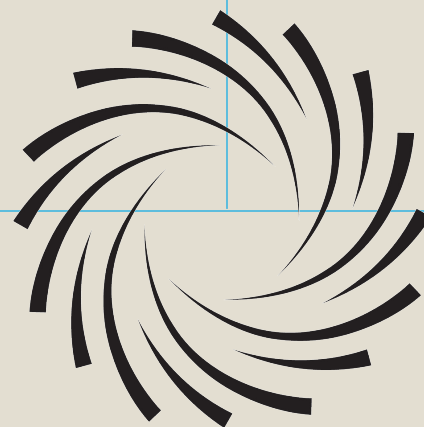
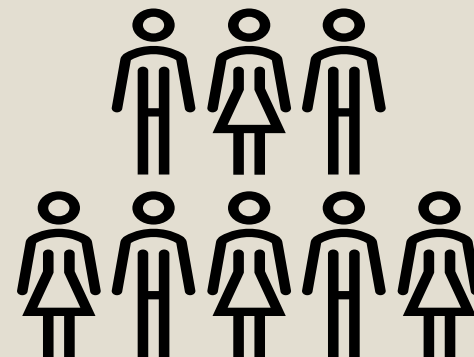
自治体はサポート役

- 地域の課題の解説
- 既存の制度や仕組みの解説
- 関連データの解説
- 作業の進め方アドバイス

社会の流れを読む
データ分析



人の心を読む
デザイン思考



3D

人の活動を支援する
デジタル技術



活用

デザイン思考のポイント

1. 相手に共感する

2. 相手と協働する

3. 未来から発想する

4. 実践を振り返る

共感はアダムスミスから始まる
国富論だけでは片肺飛行
道徳感情論の共感
「投影的共感」

オンラインで説明
の機会を設けたい

アイデアづくりから応募までの 作業の進め方サンプル

- **ステージ1／根底の課題とニーズの抽出（ツール：データ分析とデザイン思考）**
 - データや資料を活用して課題を分析し、デザイン思考による共感で課題の掘下げをして、根底の課題抽出をします。
- **ステージ2／アイデアづくり（ツール：デザイン思考）**
 - 掘り下げた課題を解決する具体的なアイデアの生成をグループワーク・ワークショップで行います。アイデアを練るため繰り返しの机上テストも良いでしょう。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。
- **ステージ3／応募の仕上げ（ツール：論理思考）**
 - こうして出来上がったアイデアについて、実現性チェックつまり実現可能性の確認をし、ストーリーを意識して、①アイデアの内容、②データによるアイデアの理由づけ、③実現までの流れをまとめてください。応募用紙はこの流れになっています。

STEP3 と アイデアの実行

STEP3

- 一次審査 1-2月
 - アイデア書類審査
- 最終公開審査イベント 3月
 - ファイナリスト審査と表彰
 - セミファイナリスト投票
 - ポスター展投票
 - 協賛団体賞

実行に至る壁

アイデアの実行

- ファイナリスト改善アドバイス 4月
- 自立への道
 - リーダーのコミット
 - 自己収入と資金繰り
 - 柔軟に進化するアイデア
 - 開放的な取り組み

補足

オープンガバナンス の推進の場の実現

- COG事務局

地域アゴラ(自然なポリティの場)が生まれていく

変わる市民

地域のことは自分ごと

変わるNPO

自分も一市民

変わる企業

自分も一市民

地域アゴラ

社会のウェルビーイング向上

変わる行政

企画と現場の連携
地域のプラットフォーム

AIが描くアゴラのイメージ



<https://stablediffusionweb.com/>

アゴラでの共創的意思決定と実行

- 水平的共創的意思決定プロセス
- 自分の立場にこだわらずかみしもを脱ぐ
 - 立場を入れ替えてみる経験が有効
- ソーシャルキャピタルを醸成する・・・
 - ネットワーク
 - 相互信頼
 - 共通規範
- 利害関係者を切り盛りする能力
 - 入口（課題発見）から出口（アイデアの実行）までカバーできるスチュワードを育てる
 - 当事者への共感をベースにする
 - 時にはデータ（事実）に聞く
- 原点に立ち返る
 - 社会のウェルビーイング向上
 - 専門家は科学的専門知識提供

地域アゴラ

公共サービスエコシステムを育む土壌

地域アゴラ成功のカギ

ソーシャルキャピタルを醸成する・・・

- ・ ネットワーク
- ・ 信頼
- ・ 規範

各地で地域アゴラの
具体例を探してい
きましょう

地域アゴラから
PSEが生まれます

地域アゴラは各
地域で複数あっ
てよいです



地域アゴラは、市
民・学生云々と行
政の立場の違いを
意識しつつも、心
理的な距離を取り
除いて、地域社会
のためにどう協働
ができるかの土壌
となります

このため一旦かみ
しもを脱いで（肩
書を一旦わきにお
いて）みな地域の
一市民になって共
通のウェルビー
ングを求めましょ
う